

青梅市文化財ニュース

第421号

令和4年11月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

西分神社境内地 井上頼圀等歌碑

西分神社の境内地に歌碑があります。正面に三首の和歌と詠んだ人物の名が刻まれています。詠み人は、右が本居豊穎、真中が権田直助、左が井上頼圀で共に国学者です。建碑は明治13(1880)年。「井上頼圀等歌碑」として表示板が立ち、碑には破損箇所があります。

(右) 神がきのはなより花にしめはへて かすみも風をまもる春かな 豊穎

(中) かみがきにいくとせかけてちぎるけむ はるのたむけのはなのしらゆふ 直助

(左) 咲花のゆふしでかくるしめのうちに 心もはるもこもりけるかな 頼圀

本居豊穎 天保5(1834)年4月28日～大正2(1913)年2月15日。本居宣長の曾孫。
あきのや秋屋と号した。若くして紀州藩校・古学館教授となる。維新後は神祇官、教部省などの官職を歴任、のち東宮侍講に任じた。また東京帝大や國學院の講師を兼ね、大八洲
おおやしま学会を主宰、国学と和歌の振興に尽力した。和歌はよく詠み「秋屋集」等がある。

権田直助 文化6(1809)年1月13日～明治20(1887)年6月8日。名越廼舎と号した。
武蔵国入間郡毛呂本郷に生まれ家業の医学を修める。平田篤胤門人。幕末に尊攘運動に参加。維新後は新政府の大学中博士等に任じられたが、国事犯の嫌疑を受け免官となる。赦免後、大山阿夫利神社社司、皇典講究所教授を歴任した。

井上頼圀 天保10(1839)年2月18日～大正3(1914)年7月3日。江戸生まれ。平田篤胤歿後門人。古医道を権田直助に学び、和歌を相川景見に学ぶ。維新後は文部省、宮内省に出仕。私塾神習舎で教えた。松野勇雄等と皇典講究所を設立。國學院教授。女子学習院教授。東京帝大文学博士。「六国史」を校訂、「古事類苑」編纂に関わる。

季節は何れも「春」が詠みこまれ、「かみ神がき」「しめ」「ゆふ」の語が三首のうち二首で二回ずつ、三つ巴の関係を形成するかのように使われています。「かみがき」は神社の周囲の垣のことで「みずがき瑞垣」「たまがき玉垣」ともいいます。また神社の建物を指す場合もあります。「しめ」はこの歌では「しめなわ注連縄」。「ゆふ」は楮の樹皮を原料とした布や糸で、神事では幣帛としてへいはく大神に供えます。「ゆふしで」は神前に「ゆふ」を垂らすこと、もしくは垂れている「ゆふ」を指します。残念ながら歌碑建立の由来は伝わりません。春の季節の西分神社、もしくは春祭りを記念して建てられたのでしょうか。

三者の中で井上頼圀は青梅と関わりが大変深い学者です。頼圀は文久の頃（1861 頃）西分村の質舗・山崎喜右衛門の自宅に招かれ、国学を講じています。この時に講義を聞きに集まった人々の中に西分村の里正・浜中良亮、勝沼村の里正・齋藤眞指がいました。後にこの二人は平田篤胤歿後門人になりました（「門人姓名録」明治 2 年 1 月 18 日）。

頼圀が大切に保存した平田家門人帳の写本には、浜中良亮の入門の所に「好兵学、詩書文章ヲ善クス、区長、号恭斎」との頼圀自身による書き込みがあり、また息子の浜中嘉吉が頼圀の門人となったことが書かれています。

浜中良亮は明治元(1868) 年 5 月、彰義隊から別れた振武隊が御岳山を目指し青梅に迫る中、隊長である渋沢成一郎（渋沢栄一の従兄）等から尋問を受けます。ここで地の利の悪さと食料自給・運搬の難しさを説き、御岳山への進軍を断念させました。進路を北に変更した振武隊は飯能で官軍と交戦し、戦火により市街地は焼け野原になりました（飯能戦争）。浜中良亮はその後、幕末から明治維新时期に行政や法令が目まぐるしく変化する中、村落の連合体の代表役を務め、明治 6 (1873) 年には神奈川県第十三大区の区長を務めました。

齋藤眞指についても門人帳の写本に頼圀の書き込みがあります。「明治卅七・三ノ廿四午後五時歿、文政五年六月六日出生、地誌ヲ好ミ勉強家ナリ」とあり、息子である藤太郎・宗志郎が「二人予（頼圀）門人」とであるとあります。

明治 3 (1870) 年 4 月、勝沼村の齋藤眞指の自宅を郷学校として、井上頼圀が付近の神職および其の子弟や村の児童に授業を行いました。明治 4 (1871) 年 5 月には長渕村の名主・中村猶太郎が主唱し郷学校「協心神習舎」が開かれます。この時の教師は井上頼圀、代教師が齋藤眞指でした。学制公布により郷学校は廃止されますが、明治 6 年 6 月から公立の「神習学校」として新しく出発しました。西分村にも明治 6 年に「温知学校」が置かれ、仮教師として齋藤眞指が授業を行っています。

齋藤眞指は勝沼村の里正（名主）として青梅の地方沿革に詳しく、地理に明るい人物でした。明治政府は「皇国地誌」という官撰地誌編纂事業を計画しますが、官命により齋藤眞指が青梅を含む西多摩郡内の各町村の地誌調査を行いました。齋藤眞指による各地域の調査は明治 12(1879) から 13(1880) 年にかけて行われ、調査内容は詳細に記されました。青梅を含めた多摩地域に残る草稿は、郷土資料として高い評価を受けています。

「明治」という新しい御代において、浜中良亮や齋藤眞指のように、青梅では行政や教育の場で国学者から薫陶を受けた人々が活躍をしました。

参考文献 「皇国地誌・西多摩郡村誌」（平成 23 年）「青梅市教育史」（平成 9 年）
「西分神社遷宮百年祭記念誌」（昭和 48 年）「定本市史青梅」（昭和 41 年）
「続國学者伝記集成」（昭和 10 年） 「井上頼圀翁小伝」（大正 10 年）

青梅市郷土博物館では令和 4 年 10 月 15 日より令和 5 年 1 月 9 日まで、企画展「齋藤眞指の生涯」を開催しています。皆様、ぜひお越しください。

（文責 黒田 耕）